

**第 22 期 第 4 回 八尾市図書館協議会 会議概要**

日時 令和 3 年 7 月 28 日(水)

15 時 00 分～16 時 40 分

場所 八尾市立青少年センター集会室

出席者 (敬称略)

松井 純子 (大阪芸術大学教授)  
江岡 信行 (八尾市青少年育成連絡協議会)  
高橋 敏博 (八尾市校長会)  
二宮 久子 (八尾市社会教育委員会議)  
西村 一夫 (元松原市民図書館長)  
島上 智司 (大阪市立中央図書館 利用サービス担当課長)  
稲垣 房子 (元奈良大学教授)  
池田 多瑛 (公募市民委員)

欠席者 (敬称略)

鍛冶 宏之 (八尾市 P T A 協議会)  
仙田 ひろ子 (大阪府立中央図書館 司書部長)  
喜多村 洋子 (公募市民委員)

事務局

田中 淳二 (教育委員会事務局 副教育長)  
万代 辰司 (教育委員会事務局 次長)  
松田 勝人 (生涯学習課長)  
奥 大助 (教育委員会事務局参事 (図書館総括担当))  
奥田 真美 (八尾図書館長)  
仲谷 仁志 (山本図書館長)  
小田 泰造 (志紀図書館長)  
上原 康男 (生涯学習課長補佐)  
仲谷 智子 (八尾図書館利用サービス係長)  
吉位 計太 (八尾図書館資料係長)  
小畑 由季 (八尾図書館司書)  
松浦 明美 (山本図書館司書)  
喜多 由美子 (志紀図書館司書)  
中村 功 (龍華図書館長：指定管理者)  
長谷川 麻優子 (龍華図書館長補佐：指定管理者)

## 1 副教育長挨拶

## 2 委員の交代

八尾市図書館協議会委員の学校教育関係者として、松井 祥一氏に変わり、高橋 敏博氏を新たに委嘱したことを報告する。

## 3 議題

### (1) 図書館の事業報告について

#### ①令和2年度 図書館事業の報告について

委員：移動図書館ステーションの拠点として小学校が幾つかあるが、これは地域の方も利用できるか。利用状況について学校支援という点で何かしているか。

事務局：放課後に移動図書館車が行くことで、子どもたちや地域の方々にご利用いただいている。学校支援という点では、放課後児童室への団体貸し出しということも含めて、小学校で利用される分を持って行くというような連携をさせていただいている。

委員：サービス状況一覧で1日当たりの貸し出し点数の5年間の推移を見ると、平成28年度が6,310点なのが、平成29年度5,949点、平成30年度5,859点、令和元年度5,441点、令和2年度4,868点と少しずつ減っているという状況がうかがえる。今後サービスをいかに向上させていくかについての論議を館内でしていただきたい。

事務局：コロナの以前から、図書館の利用者は少しずつ減っていることに危機感を持っている。今回、生涯学習課という形で図書館の仕組みも組み込まれたので、今まで図書館だけでやっていた部分にプラスして、生涯学習課として、子ども向けの行事やいろいろなイベントを含めて、地域のコミュニティセンターも活用し、図書館との連携を図り、両側面でサービスの提供に努めたい。

委員：令和2年度の受け入れ点数が1割程度減っているが、どういう原因があるか。また、職員数が令和元年度と令和2年度とを比べると増えているが、これはどういう理由からか。

事務局：受入点数については、一定制限がある資料費の中で、令和元年10月に消費税率が8%から10%になった影響により受入点数が減少してしまった。また、寄贈が令和元年度は7,342点であったのに対し、令和2年度が5,259点と、2,000点を超える寄贈の減少というのが大きな要因の一つになっている。職員数については、市の任用制度が変わり、今まで嘱託員、非常勤嘱託職員、臨時的任用職員と大きく三つに分かれていたところが会計年度任用職員という形で一本化された。会計年度任用職員の1週間当たりの時間数に制限があるため、業務人員を確保するために若干人数的には増えている。

委員：予約状況に関連して、コロナ禍で予約本の受け取りのみという期間がまた想定される。WEB予約が全体の7割ではあるが、WEB予約が難しい人の中に、電話やFAXでの予約の受け付けを知らない人も多いのではないか。また、今

の予約の方法よりも簡単にできる方法を何か検討しているか。

事務局：八尾図書館サービスのPR手段としては、館内ポスターの掲示、市政だよりやホームページに掲載するのが現状である。今後、コロナ禍におけるこの1年間の経験を活かし、早い段階でいろいろな手法を講じて、サービスを利用しやすい仕組みの提供や、PRの仕方を検討していきたい。

委員：DVDやCDは4館で同じものを置いているのか。

事務局：基本的には重複しないが、利用頻度の高い資料は複数館で持っているものもある。

委員：録音図書について、貸し出しの窓口が各図書館にあり、蔵書は八尾図書館で集約されているのか。

事務局：八尾図書館の蔵書になっているが、貸し出しの希望があればその館へ移し、全館で同じように使える仕組みになっている。効率等の観点から、一館でまとめて置いている。

委員：障がい者サービスの点について、録音図書とはデイジーの意味か。今年度もなかなか難しい状況と思うが、対面朗読の実績が0であり、現在の状況がよく分からない。オンライン上のデータベースのサピエは、この図書館として登録されているか。

事務局：デイジーの資料と録音図書とで分けている。録音図書はCDや若干テープという形で、録音をしている資料という位置付けである。対面朗読についてはコロナの状況で、数字としては上がってきてない。サピエ図書館については、令和2年度に八尾図書館として登録し、利用できる状態である。

委員：大阪府立図書館ではオンラインで対面朗読している。つまり、希望がないのではなく、当事者にとってはやりたいとは思っているが、遠慮されているか、無理と諦めているかということも想定される。今後の参考としていただきたい。

委員：館別資料費の内訳で、AV資料が令和2年度から令和3年度にかけて半減に近い数字になっているが、今後も減らされるのか。図書の合計について龍華だけが100万円減になっているが、これはどういう理由からか。

事務局：AV資料の減については、市全体の令和2年度の予算編成時に、各事業を見直し予算を削減して余剰の財源を捻出し、コロナ対策に使っていくため、一定の金額を減額せざるを得ない状況であったことから、図書館としては、本の資料購入ができるだけ少なくならないよう配分を考慮し、令和2年度についてはAV資料の部分を削らざるをえなくなった。また、龍華図書館については開館5年が経過した時点でまだ蔵書が少ないというところで、令和元年度に資料費を100万円増額したが、コロナ禍の状況でそれもままならないということで、元に戻ったという形である。

委員：年齢別貸出人数のところ、昨年度と比較して、どの年代の利用者層が減っているか、そういう特徴があれば教えていただきたい。人数又は貸出冊数でもそ

うだと思うが、児童書の貸し出し冊数がかなり減っている。児童又は高齢者の貸し出しが減っているなど、そういう傾向があれば教えていただきたい。もう1点、会計年度任用職員の運用というのを伺いたい。

事務局：令和元年度と令和2年度については、子どもたちの利用が若干他の年齢層よりも、落ち込みがあると認識している。貸し出しの状況は、相対的に利用者が少なくなっているのでイコールの率ではないが、傾向として少なくなってきている。

会計年度任用職員の運用について、旧制度はフルタイムの嘱託員、それから非常勤嘱託職員は1週間当たりの勤務時間が短く、期限も以前の制度では最長5年であった。臨時的任用職員については、任用期間で最長で1年となっていた。現在の制度では、名称として会計年度任用職員に一本化されているが、旧の嘱託員はもともと期限の定めがないので、会計年度任用職員と名前は変わっても、フルタイムで定年まで勤務する仕組みに市全体でなっている。旧の非常勤嘱託職員・臨時的任用職員については、任用期間は1年となっており、年度ごとに選考を行い、年度の更新を行う仕組みになっている。

## ②龍華図書館の事業実績及び計画

委員：令和3年度の事業と令和2年度の事業での変更点や特徴的なことを教えていただきたい。もう1点、令和3年度の収支計画書で指定管理料が令和2年度の決算報告書よりも750万円ぐらい減額になっているが、どういう原因なのか教えていただきたい。

事務局：電子図書館を2年ほど前に始めて、それに関わるものとして、デジタル絵本を作ろうというイベントを令和3年度に初めて開催するものである。可能であれば八尾電子図書館にこういった作品も搭載できればと考えている。指定管理料については、令和3年度の事業計画書の表示を消費税抜きの本体価格の表示にしており、令和2年度の決算報告書の表示は消費税込みの表示にしたが、指定管理料に変更はなく、補記や注意書きでわかりやすく表示をさせていただくべきであったと反省している。

委員：令和2年度の事業報告で、子育て相談タイムというイベントについて、実施回数が14回で、参加人数は4人と書かれているが、14回で4人というのはどういう状況なのか教えていただきたい。

事務局：図書館で楽しむ親子の時間というのを今までは実施していたが、コロナウイルス感染症防止のため中止になっており、その代わりに始めたのが子育て相談タイムになっている。保育士の方に館内に滞在していただいて、来館された親子を対象に、希望する方に対して相談を受け付ける、という形になっている。実施回数14回というのは、企画変更後、月2回来ていただいていたので14回実施しており、その中で相談を受け付けた方が4人となっている。付け加える

と、相談回数というのは授乳室でご相談を承った方が4名ということである。フロアでのご相談まではいかないが、いろいろなことを伺っての対応の回数は、ここに記載はしていない。

委員：文部科学省が毎年実施している図書館地区別研修で、龍華図書館から1人ずつ参加しているが、他の3館の職員もこれとは別に参加しているということか。

事務局：司書も含めて図書館に携わる職員は、いろいろな研修に参加するのが原則と認識はしているが、少し遠い場所はなかなか予算がつかないという実情があり、予算の範囲の中で獲得できた部分については、積極的に参加している。オンライン研修については、そういう経験もなかったので参加しにくかったが、庁内での各種の会議もオンライン化がどんどん進んできているので、今後はオンラインで参加できる部分については、積極的な参加を考えている。

委員：電子図書館サービスの実績を教えてください。

事務局：令和2年度の方で、ログイン数が10,788人、貸出点数は4,543点、利用登録者については972人となっている。

### ③数字で見る八尾市の図書館

委員：八尾市の図書館サービスの水準が高いということは、これを見るとよくわかる。ただ、いくつかの課題は残っていると思うので、これからの図書館サービスの充実にも期待をしている。

## 4 報告

### ① 新型コロナウイルス感染症の状況下における八尾市立図書館の開館状況について

委員：今後、陽性患者数が増えてきても、これまでと同じようにまた休館というよりは、何かしら動ける方向で検討していただきたい。

事務局：図書館のサービスを提供するに当たり、可能な限り開館をして、利用者に来ていただくという大原則を持っている。ただ、市の施設である以上は、市の感染者を増やさないという大きな方針を最大限尊重していく、という認識も持っている。令和3年度は市や国の方針に原則合わせながら、市の方向性についても一定配慮ができるような状況になってきているので、できる限り利用を止めないような方策を何とか講じていきたい。地区コミュニティセンターで行っている講座についても、令和3年度から生涯学習課の直営事業ということで貸館が可能な状態であれば、何とか利用してサービスの提供を進めていきたい。

## 5 その他

委員：前回にこの協議会で議論された第2次八尾市子ども読書活動推進計画が、3月に策定された八尾市教育振興基本計画に関連して、どういう状況になってい

るのか。もう一つは包括外部監査制度に関して教えていただきたい。

事務局：1点目の第2次八尾市子ども読書活動推進計画に関しては、今年度4月から運用していくということで、計画を立てたところである。子どもたちにどんな形で読書を楽しんでもらうか、図書館を利用してもらうか、という具体的な行事などは計画の中に落とし込みができていない部分はあるが、今後この計画に基づいて、子どもたちの読書活動もサポートしていきたいと考えている。補足として、夏の暑い時期の移動図書館車の巡回時間を、通常は午後であるが、午前中に回るということで調整をした。

2点目の包括外部監査制度ですが、令和2年度の包括外部監査結果報告書で、監査人からは、市立図書館については山本図書館と志紀図書館への指定管理者制度を導入することの効果等について現状分析を踏まえた意見をいただいた。これによると、直営による運営、指定管理者による運営それぞれに、メリットとデメリットがあることがわかり、これらを踏まえ、市立図書館4館について直営館と指定管理者運営館とを併存させ、双方でサービスを競い合う、いわばハイブリット型での運営を検討するのがよいとされた。この意見を踏まえ、令和3年度には山本図書館と志紀図書館への指定管理者制度導入の可否の方針を出すということであるが、これについてはまだ教育委員会内部でも検討中ということで決まっていない。

委員：前回の協議会で、議題として出されていた中で、今年度に持ち越しで具体的な実施はこれからということもいくつかあるとは思いますが、指定管理者制度の導入については、龍華図書館以外の参加については急がずにじっくり検討していただいて、結論を出していただけるようお願いしたい。

事務局：1点報告ですが、志紀図書館空調設備の工事について、6月28日より7月31日まで、現在入れ替え工事を実施している。この間、工事の関係上、利用者が館内に入り、図書を閲覧いただくということとはできないが、予約本の貸し出しや、英字新聞の袋に図書を詰めたお楽しみ袋を入口付近で置き、来館者が選ばれた袋を貸し出しさせていただくというような取り組みを実施している。現在、工事は順調に進んでおり、8月1日の日曜日からは、他の八尾市立図書館と同様の状態で開館させていただく予定となっている。

委員：今年度、絵の本ひろば養成講座ということで、まずは子どもたちの本の手渡し役の図書ボランティアや、学校図書館サポーターを対象に開きたいと思っている。毎年、飛鳥・橿原ユネスコ協会が、イオンモールの橿原店で絵の本ひろばを開催しており、こういうことを八尾でも開催したいと思うので、参考にさせていただきたい。

委員：非常に良い催しだと思うので、ぜひ八尾でも実施していただければと思う。